

2020 年 6 月 22 日

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

## 『スマホで身分証明』を実現する国際標準の審議が始まります ～モバイル機器での身分証明管理～

- 海外ではデジタル運転免許証などと呼ばれる、モバイル機器を用いた身分証明管理の実用化に向けた研究・実証が進んでいますが、その信頼性やセキュリティ確保といった課題に対処するために、国際的な基準が検討されています。
- 今般、日本から、個人認証可能な IoT 機器に搭載されるセキュアエレメント の信頼性に関する国際規格案を提案し、審議入りが認められました。

### 1. 提案の目的・背景

身分証明書機能をモバイル機器で実現しようという動きが広がりつつあります。パスポート、運転免許証など高精度な本人確認を必要とする身分証明書には、改ざん・違法複製を防止するために IC カードのセキュリティ機能が用いられてきました。このような身分証明書の機能をスマートフォンのアプリで実現し、必要に応じて最新の身分証明書情報やセキュリティを反映するためのアップデートも行えるようにすることが検討されています。

モバイル機器での身分証明書機能の実現を推進するために、この分野の標準化を検討している ISO/IEC 専門委員会※<sup>1</sup> では、4 つの視点※<sup>2</sup> で国際標準開発を進めています。

この度、日本から、5 つめの視点として、重要な情報を安全に保つためのセキュアエリアの信頼度に関する認証利用の仕組みに関する新業務項目提案（NP）を行い、ISO/IEC 専門委員会にて正式に承認され、国際標準化に向けた審議が開始されることになりました。

※<sup>1</sup> ISO/IEC JTC 1/SC 17 : ISO（国際標準化機構）と IEC（国際電気標準会議）の合同委員会（JTC 1）に設立された専門委員会（SC 17 : カード及び個人識別用セキュリティデバイス）

※<sup>2</sup> 4 つの視点：①データ要素と符号化方式、②発行フェーズ、③運用フェーズ、④トラスト（信頼）モデルと信用レベルの評価

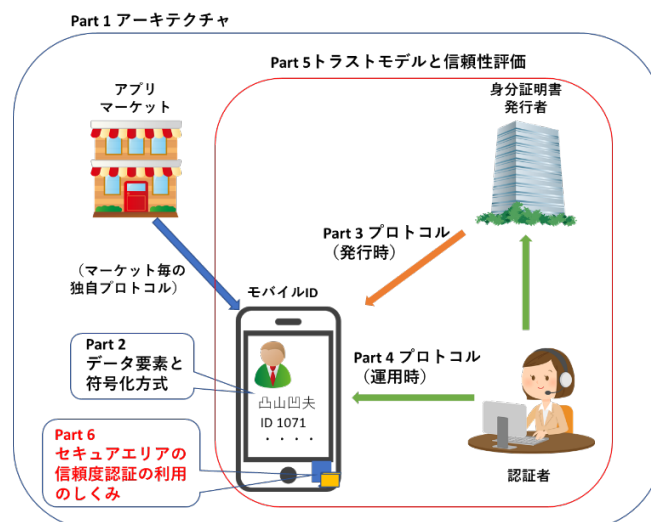


図 1 開発中の ISO/IEC 23220 シリーズ全体と各パートの位置付け

## 2. 提案の内容

従来の IC カードのセキュリティ機能を用いた身分証明書では、発行者が発行時に IC カードとしての信頼度を確認することができました。しかし、スマートフォンやモバイル機器のセキュアエリア<sup>※3</sup>の信頼度を発行者が手元で確認することは困難です。今回日本から、身分証明書発行時にセキュアエリアが機能要件を満たしているかどうかを確認するための仕組みを規定する国際標準の提案を行いました。2020 年 7 月から本格的な議論が始まり、2022 年の国際標準化を目指します。

※3 セキュアエリア（ISO/IEC 23220 シリーズにおける定義）：OS の異常動作時においても安全にデータの保存と処理を行えるように隔離された領域のことで、モバイル機器に内蔵されたものと外付けのものがある

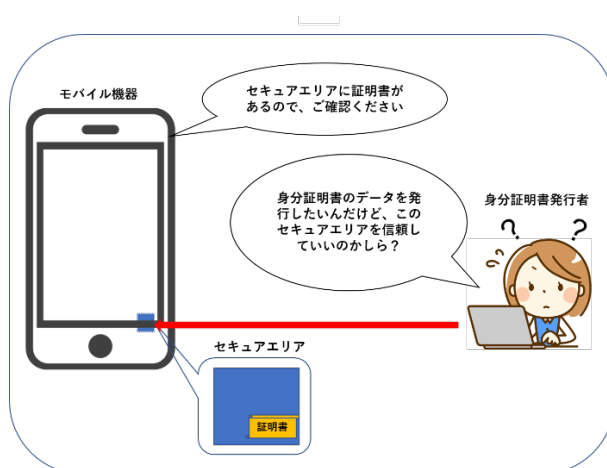


図 2 日本提案内容の概念

## 3. 期待される効果

将来、各種身分証明書機能を安心・安全にスマートフォンなどのモバイル機器にダウンロードして利用することが可能となります。これらの身分証明書は、常に個人の身分証明に必要な情報や権利・資格などの情報を最新の状態で保持することができるため、より精度の高い本人確認や資格確認をすることが期待されます。また、身分証明書を利用するためのセキュリティについても随時アップデートが可能となるため、これらの身分証明書を安心してスマートフォンを通じたネット上での本人確認や資格確認に利用することが期待されます。

JBMIA は、ご関係の皆様のご指導・ご支援を賜りながら、ISO/IEC JTC 1/SC 17（カード及び個人識別用セキュリティデバイス）の国内審議団体として、標準化活動に取り組んで参ります。

出典：経済産業省ウェブサイト

<https://www.meti.go.jp/press/2020/06/20200622003/20200622003.html>

本件に関するお問い合わせ先：

一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会

TEL：03-6809-5010（代表） FAX：03-3451-1770

JTC 1/SC 17 事務局 齋藤 真弓